

2-(1) 2010年度の主な事業の概要

＜主な事業の目標・計画＞

高等教育機関としての質向上を目指して：「学びの共同体」形成

2009年度、日本の大学数は744校あり、受験生たちはその中から大学を選択する。少子化が進む中で大学は、生き残りをかけて個性化、差別化を目指している。三育学院大学、短大、カレッジは特色豊かな高等教育機関であるが、その特色を教育に十分に反映できているか、また社会に対してその個性を十分にアピールできているかが問われている。わたしたちの課題は、教育の特色を再確認し、それを深め、広め、そして実践していくことである。

セブンスデー・アドベンチスト教会の教育理念に基づくキリスト教教育、寮教育、労作教育、食育、そしてボランティア活動などの奉仕活動、自然に囲まれた教育環境などの特色の一つ一つの持つ意味とすばらしさを再確認し、実践するための創意工夫が必要である。これらの特色は、教職員、そして学生による「学びの共同体」の形成によって生命あるものとなる。毎日の働きが讃美歌、祈り、そして聖書の言葉に方向付けられて始まるのは「学びの共同体」形成のためである。わたしたちの日々の働きがその特色を反映し、また実現するものであることを覚えて全力を尽くしたい。

特色を生かし、個性を明確化することと共に教育、研究、管理運営がバランス良く行われているか、また学生のキャンパスライフが充実しているかななどを点検する必要がある。自己点検評価は、質向上のために欠かせない。自己点検評価の充実も今年度の目標の一つである。

A. 大学：看護学部看護学科

看護学科は、2008年の開学から3年目を迎えようとしている。教育内容においては、2009年度よりロマリンダ大学など北米から3名の教授を迎えて授業が始まり、キリスト教を軸とした授業は、その内容においても、また方法においても新鮮さを学生そして教員に与える特色ある授業が展開された。通訳、翻訳などの作業は困難ではあったが、本年度は昨年を経験を踏まえてさらに充実した授業が行われると期待される。

また、後期からは本格的に実習が開始となる。その理念を共有する東京衛生病院と神戸アドベンチスト病院での実習である。三病院が掲げるその使命を担う看護師の育成を目標とした教育である。本年度は、編入学生の受入も始まる。短大、専門学校などの看護師養成機関から、編入生を10名までの枠で受け入れる。今年度は6名の学生が編入予定である。

B. 短期大学

1) 専攻科：地域看護学専攻

看護師教育を受けた後の保健師養成コースは今年度限りでその歴史を閉じることになる。専攻科は、地域の保健所などで実習を行い、地域の健康を支える保健師養成を行っている。実習場確保が非常に困難であるが、長年地域で保健師として活躍してきた教員が多く、実習場の理解と協力が得られて感謝である。今年度は26名の学生を受け入れる予定である。

2) 英語コミュニケーション学科

世界的な経済状況の低迷は、英語コミュニケーション学科の学生募集にも大きな影響を与えている。特に韓国からの留学生の減少は著しい。一方、中国、ネパールなどからも留学生を迎え、学科は国際色を増している。学科の大きな課題は、学生募集である。

2010年度から定員減を行い、現在募集定員は20名である。昨年度から渡辺清美学科長を迎え、英語コミュニケーション学科の将来に係わる検討が特別委員会で行われている。今年度は地域のために夜間講座もスタートする予定である。

C. カレッジ

1) 神学科

神学科では、今年度教団の協力の下に「信徒伝道師養成講座」をスタートする。さらに、大学生を対象とした、伝道者育成のための教団プロジェクト「フロントライン」における神学教育に全面的に協力する。また、今年度は、初等教育および中等教育の教職員を対象とした神学講座「サマースクール」を予定している。これらの働きを通し、教会や系列校に貢献したいと願っている。

2) キリスト教教育学科

今年度の入学予定者は1名である。在籍者も1名であり、計2名である。幼小で三育教育を展開するための教員養成を行っている。三育教育における初等教育への貢献を目指している。学科としての人数は少ないが、三育教育の初等教育を支えている学科である